

平成29年（2017年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,844万6千頭
(犬：892万頭、猫：952万6千頭)

ペット飼育に関する高齢者の動向を考慮し、2013年より調査対象者の年齢を「20～69歳」から「20～79歳」に変更。2013年～2017年の過去5年間の調査結果により今回集計。

猫の飼育頭数は横ばいであるが、犬の飼育頭数は減少傾向。今回の調査で、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回った。

シニア（70代）の犬飼育率は他の年代が減少傾向に比べ維持。散歩頻度/時間ともに全世代の中で最多。犬の飼育に適した環境が比較的に整っており、飼い主、犬ともに充実した生活を送っている現状が明らかになった。

ペットフードの事業者を中心とした94社（正会員59社、賛助会員35社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、平成29年（2017年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。主な結果は次の通りです。

1. 平成29年度 全国犬・猫 推計飼育頭数

全国の推計飼育頭数 犬：892万頭、猫：952万6千頭。

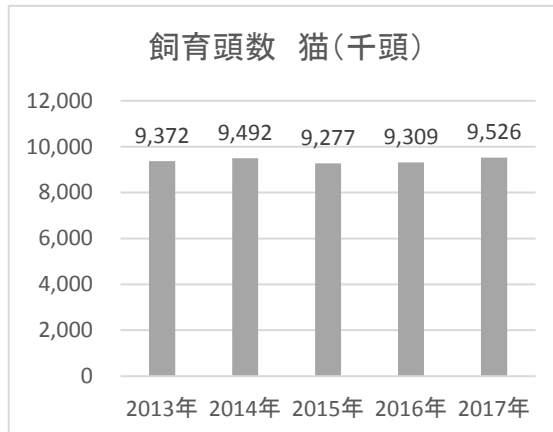
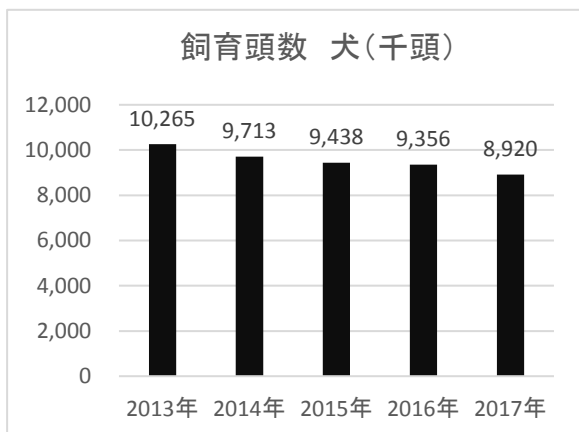
2013年より調査対象者の年齢を「20～69歳」から「20～79歳」に変更し、2013年～2017年の過去5年間の調査結果が蓄積できたことにより今回集計しました。

時系列でみると、猫の頭数は横ばい、犬の頭数は減少傾向にあり、今回の調査で、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回りました。

また飼育率も世帯数の増加傾向が続く中で、猫は9%後半を維持し、犬は、減少傾向にあります。

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	55,222.6	12.84%	7,217	1.24	8,920
<猫>	55,222.6	9.71%	5,459	1.75	9,526

尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



2. 平成29年 犬猫の年代別現在飼育状況

年代別での飼育状況をみると、5年前と比べ犬の飼育率はどの年代でも減少しており、最も飼育率の低下が顕著なのは50代でした。なお、20 - 60代の飼育率減少に比べ、70代の飼育率は維持されています。また、猫の飼育率は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2013年比

	犬	猫
全体	12.8% (▲2.2%)	9.7% (▲0.2%)
20代	13.3% (▲1.8%)	9.0% (0.0%)
30代	10.7% (▲2.0%)	8.9% (▲0.1%)
40代	12.7% (▲2.4%)	10.2% (0.4%)
50代	15.4% (▲4.6%)	11.5% (▲0.3%)
60代	14.2% (▲2.2%)	10.6% (▲0.3%)
70代	10.5% (▲0.2%)	7.6% (▲1.1%)

3. 平成29年 犬猫の年代別今後の飼育意向

年代別での今後の飼育意向は、5年前と比べ犬の飼育意向がどの年代でも減少しており、最も飼育意向の低下が顕著なのは50 - 60代でした。なお、猫の飼育意向は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

飼育意向のある方々が、犬を飼育できるような環境の整備やサービスの向上が将来に向けての飼育頭数拡大に必要といえます。

() は 2013 年比

	犬	猫
全体	21.0% (▲4.4%)	16.3% (▲0.5%)
20代	25.4% (▲2.7%)	20.7% (1.0%)
30代	21.5% (▲3.1%)	17.4% (0.8%)
40代	21.3% (▲4.7%)	17.5% (0.5%)
50代	23.1% (▲7.7%)	18.1% (▲0.5%)
60代	19.6% (▲5.7%)	14.0% (0.2%)
70代	15.4% (▲2.0%)	10.4% (▲0.1%)

4. 平成29年 犬・猫平均寿命

犬全体の平均寿命は14.19歳、猫全体の平均寿命は15.33歳でした。犬は、超小型犬、小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.25歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.83歳と寿命に大きな差がありました。

5. 平成29年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて「阻害要因」、「あったらいいと思う飼育サービス」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 十分に世話ができない | 27.1% |
| 2. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 25.3% |
| 3. お金がかかる | 25.0% |
| 4. 別れが辛い | 22.8% |
| 5. 最後まで世話をする自信がないから | 21.0% |

あったらいいと思う飼育サービス

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 旅行中や外出中の世話代行サービス | 41.3% |
| 2. 高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス | 28.7% |
| 3. 健康保険料、生命保険料などが減額になるサービス | 28.0% |
| 4. 飼育が不可能な場合の引き取り手斡旋サービス | 27.5% |
| 5. 老化したペットの世話対応サービス | 18.5% |

飼育のきっかけ

犬

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 32.6% |
| 2. 以前飼っていたペットが亡くなったから | 24.3% |
| 3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから | 16.3% |

猫

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 30.3% |
| 2. 以前飼っていたペットが亡くなったから | 22.9% |
| 3. 子供にせがまれたから | 10.0% |

犬の飼育の心得

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. 毎日、欠かさずペットの世話ができるか | 56.7% |
| 2. 近隣に迷惑をかけないような飼い方ができるか | 44.3% |
| 3. ペットを飼うことによる費用を負担できるか | 42.6% |
| 4. そのペットの飼い方をきちんと知っているか | 39.0% |
| 5. ペットの飼える住環境か | 38.6% |

6. 平成29年 ペットフードのタイプ別利用率（複数回答）

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が9割近くあり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、猫に「おやつ」をあげる人が増えてきています。

() は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫（外猫を除く）
市販のドライタイプ	84.7% (85.1%)	92.5% (91.8%)
市販のウェットタイプ	25.1% (24.7%)	49.1% (49.3%)
市販の半生タイプ	17.5% (17.8%)	16.4% (14.6%)
市販のおやつ	36.3% (36.1%)	33.7% (28.7%)
ペット用療法食	7.3% (6.9%)	10.6% (10.6%)
手作りのペット用食事	12.5% (12.7%)	3.6% (4.3%)
人間の食事の残り	7.3% (7.2%)	3.5% (4.5%)
その他	3.5% (3.3%)	2.4% (2.8%)

7. 平成29年 1ヶ月当たり支出総額

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。()は昨年
の数字

犬に関する支出総額(医療費等含む) ￥10,818 (￥8,079)

猫に関する支出総額(医療費等含む) ￥7,475 (￥5,403)

8. 平成29年 シニア(70代)の犬飼育サマリー

飼育状況・飼育意向：70代は、飼育率・飼育意向ともに維持。(20-60代は、飼育率・飼育意向とも減少)

飼育されている犬種：「雑種」「ミニチュア・ダックスフント」「柴犬」の順。

散歩実態：散歩頻度・時間とも全世代の中で最多。犬と接する時間が長く、散歩を通じて自身の健康も維持したい。

飼育きっかけ：「運動不足解消のため」が他の年代より高い。

阻害要因：「最後まで世話する自信がない」「別れが辛い」等の心理的障壁。

以上